

経済マンスリー

[原油]

原油市場を取り巻く環境（9月）

1. 原油価格の推移

原油価格（WTI 期近物 1 バレル当たり）は、新型コロナウイルス感染第 1 波後に各国・地域で経済制限が緩和され、世界経済の景況感が改善すると、OPEC プラス減産合意（4 月）による需給改善期待と相俟って、5 月以降ほぼ一貫して上昇基調を辿り、夏場には 40 ドル台を固めていた。しかし、9 月に入ってから、世界景気回復ペースの鈍化や米国株の下落、欧州を中心とする感染第 2 波拡大など主として需要側の悪材料が重なり、一転軟調地合いに転じ、一時、36 ドル台後半まで下落した。月後半に掛けては、在庫統計等で需給改善が確認され価格はやや戻し、足元では 40 ドル弱で推移している（第 1 図・上）。

2. 需給の動向

EIA の 9 月月報によると、世界の原油需要は日量 9,431 万バレル、供給は同 9,155 万バレルで同 276 万バレルと、3 ヶ月連続で需要超過を記録した。需要の回復は依然道半ばだが、OPEC プラスの協調減産により供給が絞られていることが背景にある（第 1 図・下）。

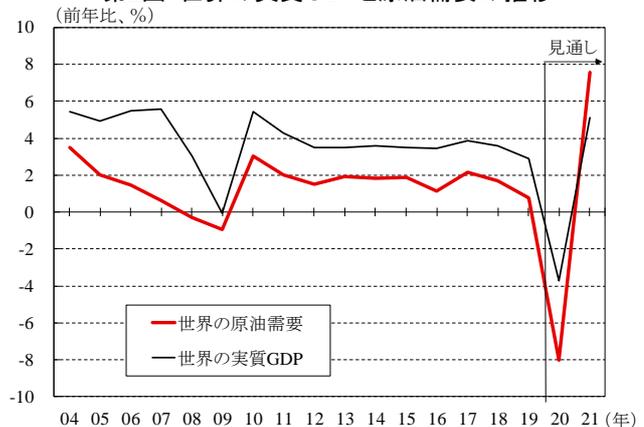
今後については、この需要超過の動向が焦点の一つになるとみられるが、まず供給面では、OPEC プラスの協調減産の順次縮小が予定されていることに加え、米国シェールオイルに持ち直しの兆しがみられること等から、供給も底離れを鮮明にしていこう。他方、需要面では、世界経済の回復ペースをなぞる動きとなるとみられ、具体的には 7-9 月期のリバウンド後には拡大ピッチは鈍る可能性が高い。もっとも、コロナ禍の顕著な再悪化がない限り需要が再び腰折れすることは考えにくく（第 2 図）、この結果、需要超過の状態自体は当面維持されるため、原油価格は当面 40 ドル台半ばを目指す緩やかな上昇基調を維持するものと考えられる。但し、新型コロナウイルス感染再拡大による需要下振れ等が招く価格下落リスクには引き続き注意が必要となろう。

第1図：原油価格及び世界の需給バランスの推移



（資料）EIA資料、Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

第2図：世界の実質GDPと原油需要の推移



（注）原油需要の見通しはEIA、実質GDPの見通しは当室によるもの。
（資料）EIA（米エネルギー情報局）資料より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 中山 健悟 kengo_nakayama@mufg.jp
鷹巣 里奈 rina_takasu@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊社ホームページでもご覧いただけます。